



● 経歴 ●

昭和63年	地方公共団体で勤務(保健師)
平成6年	学校法人で勤務(保健師)
平成22年	自営業に従事
平成26年	地方公共団体で勤務(保健師)
平成28年	復興庁市町村応援職員として双葉町に駐在

※復興庁スキーム

福島県双葉町 健康福祉課

谷岡 道子 さん

年齢:52歳

出身地:福島県

福島県へのUターンを機に、自分の職種を活かせることがあればと思い、復興庁市町村応援職員に応募。

もともと福島県出身で、家族でUターンを考えていたことがきっかけです。Uターンを機に、自分の職種(保健師)を活かせることがあればと思い、復興庁市町村応援職員に応募しました。

保健師として、地域の保健活動に従事。

住民の方ができるだけ健康であり続けられるよう、自分ができることは何かを考える日々。

双葉町は、現在も全町避難をしており、勤務する役場はいわき市にあります。双葉町の住民は、いわき市をはじめ全国に避難しているので、避難先自治体や関係機関との連絡調整は多く、情報共有の重要性を感じています。

主な業務は、多くの住民が避難しているいわき市を中心に体操教室を開催したり、家庭訪問など、地域の保健活動をしています。

特に、健康づくりのため、集団健診後の説明会で節酒指導を取り入れました。自分の飲酒を振り返り、知識を身に付けてもらうことで、健康的な生活につながるよう取り組んでいます。これは、前職の経験を双葉町で活かす機会ともなりました。一人でも多くの方の生活改善につながり、健康を保てれば良いと思っています。

また、住民の方々と接する機会は多い業務で、直接住民の方にお会いする前は、どのような対応をするべきか不安もありました。私の想像が及ばないほどの経験をされた方も多く、逆に教えてもらうことも多いです。皆いろいろな状況の中で生きているということなのだと思います。今はこの環境の中で住民ができるだけ健康であり続けるために、自分ができることは何なのかを日々考えながら、仕事に当たっています。

これから被災地で働く方へメッセージ

被災地といってもそれぞれの状況は異なります。来てみないと分からないことが多かったと思います。

「何かをやってやろう」と意気込まれることもあると思いますが、一緒にやっという気持ちで、あまり頑張りすぎないことも大切です。被災地だからと特別扱いせず、住民に寄り添う地域の保健師を目指せたらと思います。